



2026年も全力で 埼玉県の「安心・安全」を 追求してまいります

1977年生まれ
香蘭女学校・早稲田大学
政治経済学部卒業
1男2女(21.19.17歳)の母
防災士
民主改革さいたま市議団
元政務調査員
2023年4月 さいたま市
浦和区より県議会議員
トップ当選

昨年1月に起こった八潮市道路陥没事故は、下水道管をはじめとする様々なインフラの老朽化が進んでいること、そして再整備の必要性が迫っていることを知らせる大変重い事故となりました。未だ現場は完全復旧せず、住民の方々、事業者の方々への補償も始まったばかりです。今後、**下水道管の点検の在り方**については、**県民の安心を得られるものとする**ため、埼玉県が経験として得た知見をしっかりと国と共有していくべき、と昨秋の決算委員会でも指摘させていただきました。昨年末、「強い経済をつくる」ための第一歩として組まれた国の補正予算で、八潮の事故についても補助金がつけられましたが、今後の**インフラ整備にかかる費用を誰がどのように負担していくのかも**考えていかねばなりません。



12月定例会で2024年度決算の認定に対する賛成討論を本会議場で行いました

また、足元の生活に目を移せば、円安を起因とする物価高は続きますが、賃金上昇は追いつきません。ガソリンや軽油が減税されても、国からの地方特例交付金(2026年度当初予算ベースで244億円)がなくなってしまうと、県政にとって影響は少なくありません。

一方、医療や介護、保育や教育、農業や建設などの現場で人手不足は深刻化し、安心な社会インフラの存続が危ぶまれています。昨年末、国からの補正予算で病院や介護施設、保育所等への支援も決まりましたが、**働いている方への賃金アップ**につながるかは注視しなければなりません。(詳細は2面)

浦和にとっては、**県庁舎の再整備に関する議論**が山場を迎えます。昨年12月もさいたま市商連から県に対して、現在地での建て替えを求める要望書が提出されました。1月30日に有識者や関係団体を交えた「県庁舎再整備懇話会」が開かれ、それを受けて知事の判断が年度内に下される見込みです。地元からの要望が通るのか、浦和美園への移転となるのか埼玉県にとっての一つの岐路となりそうです。

今年の埼玉県で注目のトピックは11月に開かれる「**ねんりんピック**」です。60歳以上の方が対象ですが、スポーツだけではなく俳句や健康マージャンといった文化交流も行われます。人生100年時代。私の政策目標である「いつでも再チャレンジできる社会を目指して」今年も全力で活動してまいります。



詳しくはこちら▲

埼玉県議会 12月定例会 TOPIC

① カスタマーハラスメント 防止条例制定

誰もが安心して働くことができる環境を整備し、事業者、消費者双方にとって公正な取引が行われるよう基本理念が定められました。罰則規定は現時点ではなし。

② 一級河川笹目川の 特定都市河川指定を目指す

さいたま市南区白幡を起点とする笹目川は、令和元年東日本台風で戸田市の約170戸に床上・床下浸水の被害をもたらしています。特定河川の指定を受けることで、「国から予算措置がされる」、「流域治水対策への国からの補助率がアップする」などの利点があります。

③ 障害者の方向け県所有のリフト付き大型バス 「おおぞら号」の運行終了へ

50年にわたり県独自の福祉施策として、障害者の方々の社会参加を後押ししてきた「おおぞら号」がバスの運転手不足を主な理由に運行が終了することに。県は代替案を検討するとしていますが、同じく福祉施策として障害のある方とご家族が気軽に利用できる宿泊保養施設「伊豆潮風館」も廃止を視野に入れた検討がされており、当事者の方の声を聴いていく姿勢がより一層求められています。